

Go For It !

平成 30 年 1 月 30 日発行 第 10 号

福島県立相馬高等学校第 1 学年

二兎を追う者は一兎をも得ず (にとをおうものはいっとをもえず)

みなさんは、このことわざの意味を知っていますよね？2匹のウサギを同時に得ようと追うものは、結局1匹も捕まえることができない。という意味で使われています。

でも、私は実は「二兎を追う者は二兎をも得る」と考えています。たとえば高校生活で、進学や就職、夢をかなえるために、勉強を頑張っている人は、同時に部活動や社会活動にも積極的に一生懸命頑張ることができています。勉強を理由に部活動をやめてしまったり、部活動を理由に赤点を取ってしまう人は、結局のところどちらもやり遂げることができていないことが多いように思います。

つまり、目標を持って一生懸命物事に取り組むことは、本来できないとされている、2匹のウサギを同時に得ることを可能にするのです。むしろ、なんだかんだと言い訳をつけて、一方をあきらめた人は、結局どちらも得ることができないことがあるのです。有名難関校に合格した先輩方も、部活動と両立し、二兎を得ています。

早いもので、もうすぐみなさんは2年生になります。安易に物事をあきらめず、卒業の日に、そして大人になって充実した楽しい日々が送れるように、ぜひ二兎を追って二兎を得てください。でも、追う二兎の選択を間違えないでくださいね。



(4 組副担任 菅野 恵)

「2 年生 0 学期・1 年生の学習の総まとめ」

進路希望調査 (1 月) で、第一志望を「未定」と書いている人がいる。複数の学部から選べず迷う人、親と意見が合わず悩む人、現在の成績を見て迷いがでた人もいる。悩みがあっても先が見えなくても、毎日の学習にしっかり取り組めば、進路の選択肢も広がるはず。「何のために勉強しなくちゃならないのか」点数をとるだけでなく、自分の見えない力 (思考力・教養・判断力など) を高めるためだ。また、仮にであっても進路目標があれば、今やるべきことは明確になる。大学志望なら全国にライバルがいる。努力は無駄にはならない。学期末考査にむけて、苦手科目の復習をしっかりとっておこう。

「中学校と高校の違い」

中学校を卒業して、早一年が経過します。みなさん、高校 1 年生はいかがだったでしょうか。今回は、「中学校と高校の違い」の中で「進級」という点に絞って書きます。自分に関係ないと思わず一読してほしいと思います。

① 「赤点」と「進級」

3 学期の通知票に赤点が 4 つあると、原級留置 (留年) となります。また、3 つ以内でもそれぞれの科目で単位追認試験を受験し、合格しなければ原級留置となります。

1、2 学期に赤点を取っていたとしても、成績不良科目指導をしっかりと受けていればそちらの赤点は基本的にカウントしません。

(影響が全くないということではないですよ)

② 「出席時数」と「進級」

大まかにいうと、それぞれの科目において 2 割以上の欠席があると「進級」に影響が出ます。(インフルエンザなどの出席停止はカウントしません) ただし、入院などの理由であれば考慮されることもあります。

※これらに関する説明は、難しい部分があるので、疑問点は担任の先生に聞きましょう。

以上の 2 点は、日々の積み重ねによって出てくる数字です。学校を休まず、授業を真剣に受けることで全員が安心して進級できるようにしましょう。(教務 鈴木秀希)

2月の行事予定

- 2月 1日 (木) I 期選抜*終日生徒敷地内立入禁止
- 2日 (金) 3校時授業 12:30~生徒校舎内立入禁止
- 3日 (土) 全統記述模試
- 5日 (月) 4校時授業 14:00~生徒校舎内立入禁止
- 9日 (金) 考査1週間前
- 15日 (木) 学年末考査 (~20)
- 28日 (水) 卒業式予行



計画的に
学習しよう
提出物は
期限厳守

「ブックレポート」より



冬休みの宿題で読んだ本のレポートを提出してもらった中から、感想の部分をいくつか紹介します。

みなさまさまざまなジャンルの本を読み、考えを深めています。

「希望のつくり方」 玄田有史 岩波書店（2010年発行）

希望学では希望の定義を「Hope is a Wish for something to Come True by Action（行動によって何かを実現しようとする気持ち）」としているそうで、希望を持っても行動しなければ実現しないことを実感できました。

「こんな夜更けにバナナかよ～筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち～」

渡辺一史 文春文庫（2013年発行）

筋ジストロフィーの障がいを持つ鹿野さんと彼を支えるボランティアを描いた作品でした。人との関わり合いの大切さ、自分をさらけ出すことの大切さを学ぶことができました。

「人工知能は人間を超えるか～ディープラーニングの先にあるもの～」

松尾 豊 角川E P U B選書（2015年発行）

人工知能つい最近できたものだと思っていたが、第一次ブーム、第2次ブームと昔から研究者が開発していることに驚きました。だが、第3ブームになるまで失敗していたことも初めて知りました。人工知能は私達の身近な物にまで使われているので、いつか人間の知能を超えるのではないかと怖くなり、人工知能との付き合い方を改めて考えさせられました。

「18歳選挙権で政治はどう変わるか～データから予測する投票行動～」

飯田泰士 昭和堂（2016年発行）

今回この本を読んで、18歳選挙権への期待や課題、若年層の投票の低さについてよく学ぶことができました。自分も2年後は18歳で投票の機会があるかもしれないのでこの本を読んだ経験をぜひ生かしたいと思います。

「日本人のための英語術」 ピーター・フランク 岩波新書（2001年発行）

これまでの英語や英会話の印象は、単語や熟語を文法を踏まえて意志を伝えるといったものであったが、著者の「コミュニケーションは試験でも面接でもなく、人間の共同作業である」といった視点を知った。自己紹介・日記・3, 4文字英単語のゲームなどの学習法が紹介されており、コミュニケーションの積極性の大切さも学べた1冊だった。

「レオナルド・ダ・ヴィンチ～ルネサンスと万能の人～」

西村貞二 清水書院（1984年発行）

万能の天才としてあまりにもよく知られているレオナルド・ダ・ヴィンチ。天才と呼ばれる彼の努力やありあまる探究心や好奇心に触れ、当時のルネサンスの時代背景やその他レオナルドの生い立ちなども知ることができた。レオナルドのものづくりや発明、絵画に向けた情熱に圧倒されたとともに、彼の人物像にも迫ることができ楽しく読むことができた。

「沈黙の春～生と死の妙薬～」 レイチェル・カーソン 新潮文庫（昭和49年発行）

今から50年ほど前に出版された本だが、現実にこのような出来事があったという事を知って愕然とした。勿論、現在は一部の主張は証拠不十分であるなどと評価されているが、それでも化学物質の危険性を顧みずに使用していた当時の社会に警鐘を鳴らすには十分であったと思う。ある種を絶やすために化学物質を用いると、他の種も死んでいく。動物や植物は、どれも生態系に組み込まれているので、たった一種でも自然に大きな影響を及ぼすのだ。目先の利益に囚われず、全体の事を考えるのが大切だ。

「体調管理・時間の管理」

先週は、進研模試や英検など忙しいなか、インフルエンザや風邪の欠席者が多くみられ、各クラスの目標が「体調管理」だったところも多かったです。寒い日が続きますので、制服の中に1枚多く着たり、女子はタイツを着用したり、登校時コートを着るなど温度調節をしてください。授業の予習・復習や提出物に追われ、やるが多すぎて混乱している人もいますが、手帳などをうまく利用して書き出して、スケジュール管理をしましょう。

